

LOBO 調査

早期景気観測

9月 日商調査日 9月6日～18日
 当所調査日 9月6日～19日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

9月の全産業DI ▲20.0
 (前月比+1.0ポイント悪化)

○中小企業の景況感

深刻な人手不足や原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感、根強い消費者の節約志向を指摘する声は依然として多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

また、消費税の引き上げやコスト増加分の価格転嫁の遅れ、日韓情勢の行方など不透明感が増している。

○プラス要因

省力化投資を中心とする設備投資や都市部の再開発などの民間工事が堅調な建設業や、家電製品など高額商品を中心に消費税引き上げ前の駆け込み需要が見られた小売業の業況感が改善した。

○マイナス要因

卸売業からは台風15号および大雨の影響に伴う農産物や飲食料品の供給不足・価格上昇による業況悪化を指摘する声が聞かれた。

○先行き

先行き見通しDIが▲24.5(前月

比▲4.5ポイント)悪化。

○期待感

個人消費の拡大やインバウンドを含む観光需要拡大への期待感がうかがえる。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

消費税引き上げ前の駆け込み需要の影響からか発注が増え、売上は増加した。また、台風15号による被害に伴う修理依頼や問い合わせを100件超受けているが、対応しきれない(建築工事業業)。若年層の正社員およびパート・契約社員などの有期雇用者に限り、ベラスアップを実施。また、「同一労働・同一賃金」について労使で議論し、2020年の施行に向けた条件整備に向けた取り組みを進めることを確認した(小売業)。

運送費の上昇に伴う収益の圧迫により、不足している人材の確保に関する投資ができない状況のため、既存のパート・アルバイト従業員を正社員に登用することで、個々の業務範囲を広げ、全体の生産性の向上を図っている(食料品製造業)。

【全国調査】

【全体平均DIは2カ月ぶりの悪化】

全体平均DIは▲14.1ポイントで、前月に比べ▲8.1ポイントの悪化。

項目別では、前月と比較し採算先行きが▲18.4ポイント、仕入先行きが▲28.5ポイント悪化した。

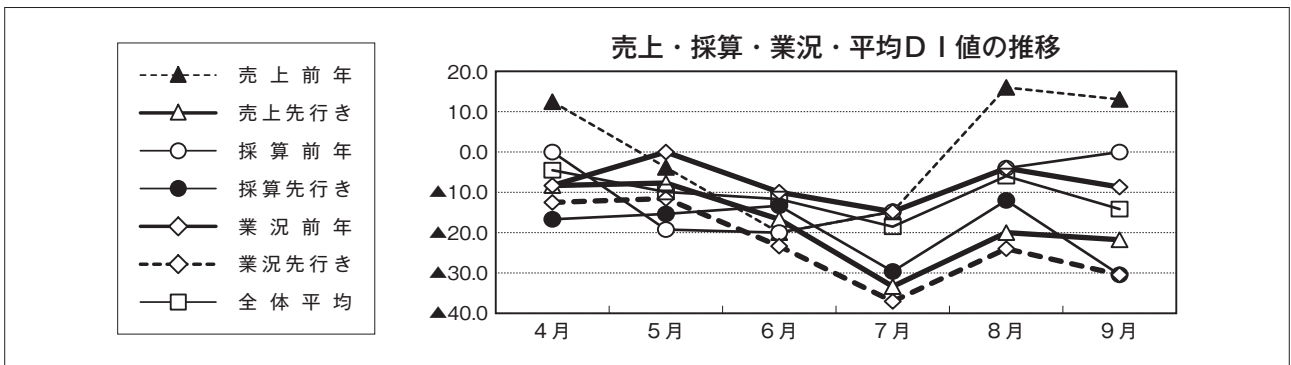
寄せられたコメントには「増税前の駆け込み需要が増加している一方、反動による落ち込みが懸念される」(織物加工染色業)、「増税を前に消費者の購買欲が落ちているように感じる」(菓子製造小売業)という声が聞かれた。

(全産業)

水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	平成30年		平成31年		令和元年		
	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上前年	▲20.7	12.5	▲3.8	▲20.0	▲14.8	16.0	13.0
売上先行き	▲6.9	▲8.3	▲7.7	▲16.7	▲33.3	▲20.0	▲21.7
採算前年	▲24.1	0.0	▲19.2	▲20.0	▲14.8	▲4.0	0.0
採算先行き	▲17.2	▲16.7	▲15.4	▲13.3	▲29.6	▲12.0	▲30.4
仕入前年	▲34.5	▲25.0	▲42.3	▲26.7	▲37.0	▲28.0	▲52.2
仕入先行き	▲27.6	▲29.2	▲38.5	▲40.0	▲40.7	▲28.0	▲56.5
社員前年	20.7	25.0	26.9	20.0	14.8	32.0	30.4
社員先行き	31.0	20.8	26.9	20.0	14.8	20.0	26.1
業況前年	▲17.2	▲8.3	0.0	▲10.0	▲14.8	▲4.0	▲8.7
業況先行き	▲10.3	▲12.5	▲11.5	▲23.3	▲37.0	▲24.0	▲30.4
資金前年	0.0	0.0	▲11.5	▲3.3	▲11.1	▲4.0	▲13.0
資金先行き	▲3.4	▲12.5	▲23.1	▲6.7	▲18.5	▲16.0	▲26.1
全体平均	▲9.2	▲4.5	▲9.9	▲11.7	▲18.5	▲6.0	▲14.1



*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。